

# 財政健全化計画等執行状況報告書

## 1. 基本的事項

団体名	高知県奈半利町	会計名	普通会計	団体担当者	井上 明
承認年度	平成19年度				

## 2. 判定結果

項目	計画最終年度(又は改善額合計)			計画前年度実績(又は補償金免除額)		類型
	目標値	実績見込値	乖離値	実績値	乖離値	
① 地方債現在高	2300.0	2658.0	▲ 358.0	4724.0	2,066.0	c
② 実質公債費比率	15.5	11.5	4.0	20.2	8.7	a
③ 職員数	56.0	56.0	0.0	55.0	▲ 1.0	a
④ 改善額	72.0	90.0	▲ 18.0	50.0	▲ 40.0	a
⑤ 公営企業債現在高						
⑥ 累積欠損金比率						
					総合判定	c

## 3. その他

### (i) 計画及び前年度執行状況の公表状況

計画:平成20年 3月 公表 ( (HP) 広報紙・その他 【 】 )  
 執行状況:平成 年 月 公表 ( HP・広報紙・その他 【 】 )

### (ii) 計画及び前年度執行状況の議会への説明

計画:平成20年 3月 説明  
 執行状況:平成 年 月 説明

### (iii) 平成22年度提出予定の旧資金運用部資金の補償金免除繰上償還に係る財政健全化計画等

- 財政健全化計画
- 公営企業経営健全化計画
  - 水道事業 ( )
  - 工業用水道事業
  - 都市高速鉄道事業
  - 下水道事業 ( )
  - 病院事業
  - 介護サービス事業
- 提出予定なし

団体名	高知県奈半利町
会計名	普通会計

## ① 地方債現在高

類型	C
----	---

## (i) 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	4,317	3,741	3,155	2,721	2,300	4,724
実績(見込)値(B)	4,317	3,684	3,134	2,997	2,658	
乖離値(C) (A-B)	0	57	21	▲276	▲358	2,066
乖離率(D) (C/A)	0.0%	1.5%	0.7%	-10.1%	-15.6%	43.7%

## (ii) 要因分析

計画最終年度における 未達成の要因	影響額(単位:百万円)					備考	やむを得ない 事情
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
臨時財政対策債(平成21年度)			39	35	31	計画を超える臨時財政対策債の発行	7
臨時財政対策債(平成22年度)				142	130	計画に盛り込んでいなかった臨時財政対策債(予算額)	7
田園交流基盤整備事業(平成21年度繰越事業)				20	20	国の経済対策交付金事業(予算額)	8
地域情報通信基盤整備事業(平成21年度繰越事業)				96	96	国の経済対策交付金事業(予算額)	8
移動通信用施設整備事業(平成21年度繰越事業)				2	2	国の経済対策交付金事業(予算額)	8
災害復旧事業債(平成22年度)				2	2	当年度、大雨災害復旧事業(予算額)	1
過疎対策事業債(平成22年度)ソフト事業				40	40	過疎法の延長による影響(ソフト事業見込額)	7
過疎対策事業債(平成23年度)ソフト事業					40	過疎法の延長による影響(ソフト事業見込額)	7
合計	-	-	39	337	361		

**(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項**

平成21年度:臨時財政対策債の増加(折半分)(39百万円)追加発行。  
平成22年度:臨時財政対策債の継続(142百万円)、国の経済対策(繰越事業)(118百万円)、現年災害の発生(2百万円)追加発行予定(予算額)。  
過疎法の延長(ソフト分)(40百万円)追加発行見込(見込額)。  
平成23年度:過疎法の延長(ソフト分)(40百万円)追加発行見込(見込額)。

**(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し**

やむを得ない事情による影響を除き、最終年度までに計画目標値を達成できる見通しである。

**(v)改善方針の進捗状況**

団体名	高知県奈半利町
会計名	普通会計

② 実質公債費比率

類型	a
----	---

(i) 推移表

(単位:%)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	20.2	19.7	18.5	16.9	15.5	20.2
実績(見込)値(B)	19.8	18.7	15.8	13.0	11.5	
乖離値(C) (A-B)	0.4	1.0	2.7	3.9	4.0	8.7
乖離率(D) (C/A)	2.0%	5.1%	14.6%	23.1%	25.8%	43.1%

(ii) 要因分析

(単位:百万円、%)

係数項目	平成21年度				やむを得ない事情	採用係数
	計画目標値(A)	実績見込値(B)	乖離値(A-B)	乖離要因		
地方債の元利償還金						
準元利償還金						
地方債の元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源						
普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金						
標準財政規模						
単年度実質公債費比率					単年度再算定比率	

係数項目	平成22年度				やむを得ない事情	採用係数
	計画目標値(A)	実績見込値(B)	乖離値(A-B)	乖離要因		
地方債の元利償還金						
準元利償還金						
地方債の元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源						
普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金						
標準財政規模						
単年度実質公債費比率					単年度再算定比率	

係数項目	平成23年度				やむを得ない事情	採用係数
	計画目標値(A)	実績見込値(B)	乖離値(A-B)	乖離要因		
地方債の元利償還金						
準元利償還金						
地方債の元利償還金又は準元利償還金に充てられる特定財源						
普通地方交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金						
標準財政規模						
単年度実質公債費比率					単年度再算定比率	
実質公債費比率					再算定比率	

(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

Empty dashed box for (iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

Empty dashed box for (iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

(v)改善方針の進捗状況

Empty dashed box for (v)改善方針の進捗状況



(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

・平成22年4月1日現在で、年度計画目標値に対し1名超過となっているが、1名の退職により現在は54名となっている。

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

・平成22年4月1日現在において、計画最終年度の計画目標値を下回っており、計画最終年度の目標値は達成できる見通しである。

(v)改善方針の進捗状況





(iii)実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

・平成22年4月1日現在で、年度計画目標値に対し1名分の人件費が超過となっているが、1名の退職により現在は54名となっている。

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

・計画最終年度の職員数の計画目標値は達成できる見通しであり、改善額合計においても目標値は達成できる見通しである。

(v)改善方針の進捗状況

## 公的資金補償金免除繰上償還に係る財政健全化計画

### I 基本的事項

#### 1 団体の概要

団体名	奈半利町	国調人口(H17.10.1現在)	3,727
構成団体名		職員数(H19.4.1現在)	59

注1 団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。

2 「職員数」欄は、普通会計の全職員数を記載すること。

#### 2 財政指標等

財政力指数	0.18(H18)	標準財政規模(百万円)	1,543(H18)
実質公債費比率(%)	20.2(H19)	地方債現在高(百万円)	4,917(H18)
経常収支比率(%)	102.3(H18)	うち普通会計債現在高(百万円)	4,724(H18)
実質収支比率(%)	5.6(H18)	うち公営企業債現在高(百万円)	192(H18)
		積立金現在高(百万円)	2,385(H18)

注 平成17年度（又は平成18年度）の地方財政状況調査及び公営企業決算状況調査の報告数値を記入すること。

なお、一部事務組合等に係る財政力指数、実質公債費比率、経常収支比率については、当該一部事務組合等の構成団体の各数値を加重平均したものをを用いるものとする（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力指数1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）。

#### 3 合併市町村等における合併市町村基本計画等の要旨

<input type="checkbox"/> 新法による合併市町村、合併予定市町村の合併市町村基本計画の要旨 <input type="checkbox"/> 旧法による合併市町村の市町村建設計画の要旨 <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
[合併期日：平成〇年〇月〇日]

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

3 □にレを付けた上で要旨を記載すること。また、要旨については、別様としても差し支えないこと。

#### 4 財政健全化計画の基本方針等

区 分	内 容
計 画 名	奈半利町財政健全化計画
計 画 期 間	平成19年度から平成23年度
既存計画との関係	奈半利町集中改革プラン（平成17年度から平成21年度）
公表の方法等	町広報・ホームページでの公表及び議会での説明
基本方針	住民と行政の協働のもとに、適切な役割分担に基づいた施策の再構築を図り、効率的な行財政運営を推進する。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

I 基本的事項（つづき）

平成19年度承認分フォローアップ用

5 繰上償還希望額等

(単位：百万円)

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	154	238	9	401
	補償金免除額	13	36	1	50
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額	14	38	4	56
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額	—	—	—	—

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除(見込)額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
普通 会計債	公営住宅建設事業	150,828	230,951	9,396	391,175
	一般公共事業	3,260	6,645	—	9,905
小 計 (A)		154,088	237,596	9,396	401,080
出 一般 債等 計					
小 計 (B)					
合 計 (A)+(B)		154,088	237,596	9,396	401,080

【旧簡易生命保険資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
普通 会計債	学校教育施設等整備事業	2,437	16,126	3,027	21,590
	公営住宅建設事業	11,877	21,762	1,466	35,105
小 計 (A)		14,314	37,888	4,493	56,695
出 一般 債等 計					
小 計 (B)					
合 計 (A)+(B)		14,314	37,888	4,493	56,695

【公営企業金融公庫資金】

(単位：千円)

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
普通 会計債					
小 計 (A)					
出 一般 債等 計					
小 計 (B)					
合 計 (A)+(B)					

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。  
 2 必要に応じて行を追加して記入すること。

II 財政状況の分析

区 分	内 容										
財務上の特徴	<p>本町の財政状況は、歳入の大部分（50%超）を地方交付税が占め、国の交付税制度改正に伴う影響を大きく受けやすい地方自治体であります。</p> <p>歳入の主な自主財源である町税収入は、歳入全体の1割程度しかまかなえておらず、さらに、その収入状況は長引く景気低迷の影響で、近年減収傾向にあります。</p> <p>これに対し、歳出に対する扶助費等は、少子高齢化の行政ニーズを反映し、年々増加しており、今後もこの状況は続くものと考えられます。</p>										
財政運営課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="432 667 632 831">課題 ①</td> <td data-bbox="632 667 1458 831">徴収率の向上 町税・公営住宅使用料等の現年分徴収率の向上及び滞納繰越分への取り組み</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 831 632 994">課題 ②</td> <td data-bbox="632 831 1458 994">事務事業の再編・整理 町単独福祉施策・町主催行事の見直し、物件費・補助費の削減、他会計繰出金の抑制</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 994 632 1158">課題 ③</td> <td data-bbox="632 994 1458 1158">組織機構の見直し 補助機関・付属機関の組織機構の見直し</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1158 632 1321">課題 ④</td> <td data-bbox="632 1158 1458 1321">民間委託等の検討 民間委託可能な業務の検討</td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1321 632 1496">課題 ⑤</td> <td data-bbox="632 1321 1458 1496">給与の適正化及び職員数の削減 当町の財政状況と、地域の実状、国、県、近隣町村との均衡等を勘案した適正化</td> </tr> </table>	課題 ①	徴収率の向上 町税・公営住宅使用料等の現年分徴収率の向上及び滞納繰越分への取り組み	課題 ②	事務事業の再編・整理 町単独福祉施策・町主催行事の見直し、物件費・補助費の削減、他会計繰出金の抑制	課題 ③	組織機構の見直し 補助機関・付属機関の組織機構の見直し	課題 ④	民間委託等の検討 民間委託可能な業務の検討	課題 ⑤	給与の適正化及び職員数の削減 当町の財政状況と、地域の実状、国、県、近隣町村との均衡等を勘案した適正化
課題 ①	徴収率の向上 町税・公営住宅使用料等の現年分徴収率の向上及び滞納繰越分への取り組み										
課題 ②	事務事業の再編・整理 町単独福祉施策・町主催行事の見直し、物件費・補助費の削減、他会計繰出金の抑制										
課題 ③	組織機構の見直し 補助機関・付属機関の組織機構の見直し										
課題 ④	民間委託等の検討 民間委託可能な業務の検討										
課題 ⑤	給与の適正化及び職員数の削減 当町の財政状況と、地域の実状、国、県、近隣町村との均衡等を勘案した適正化										
留意事項											

注1 「財務上の特徴」欄は、人口や産業構造、財政構造や地域特性等を踏まえて記載すること。また、財政指標等について、経年推移や類似団体との水準比較などをし、各自工夫の上説明すること。

2 「財政運営課題」欄は、税収入の確保、給与水準・定員管理の適正合理化、公債負担の健全化、公営企業繰出金の適正運用、地方公社・第三セクターの適正な運営等、団体が認識する財政運営上の課題及びその具体的施策について、優先度の高いものから順に記載する。また、財政運営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「財政運営課題」で取り上げた項目の他に、財政運営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。

Ⅲ 今後の財政状況の見通し

平成19年度承認分フォローアップ用

(単位：百万円)

区 分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	(計画前5年度) (決算)	(計画前4年度) (決算)	(計画前3年度) (決算)	(計画前々年度) (決算)	(計画前年度) (決算見込)	(計画初年度)	(計画第2年度)	(計画第3年度)	(計画第4年度)	(計画第5年度)
地方税	262	257	246	243	247	289	281	262	267	266
地方譲与税	71	70	84	88	95	71	64	61	71	71
地方特例交付金	10	9	8	8	5	2	3	4	5	5
地方交付税	1,474	1,393	1,365	1,367	1,317	1,405	1,470	1,488	1,234	1,184
小計（一般財源計）	1,817	1,729	1,703	1,706	1,664	1,787	1,818	1,815	1,577	1,526
分担金・負担金	5	16	8	8	9	9	9	9	9	9
使用料・手数料	52	55	59	58	62	63	66	66	62	62
国庫支出金	48	90	62	49	59	72	128	412	1,130	47
うち普通建設事業に係るもの	2	2	2	12	20	10	41	33	1,130	20
都道府県支出金	194	154	169	155	132	180	116	136	198	112
うち普通建設事業に係るもの	108	53	69	53	40	72	7	6	55	30
財産収入	21	18	15	16	14	17	55	19	14	14
寄附金	5	4	6	3	4	6	3	4	4	4
繰入金	12	134	136	119	159	260	137	187	39	77
繰越金	171	107	78	57	65	91	88	137	108	5
諸収入	72	87	76	78	144	127	101	91	78	78
うち特別会計からの貸付金返済額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち公社・三社からの貸付金返済額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債	266	342	320	222	173	191	202	219	391	184
特別区財政調整交付金	0	0	0	0	0	192	255	177	78	78
歳入合計	2,663	2,736	2,632	2,471	2,485	2,783	2,734	3,119	3,659	2,118
人件費 a	537	535	532	485	471	468	446	461	427	433
うち職員給	327	318	310	294	293	293	280	280	295	300
物件費 b	247	262	265	240	227	236	221	245	244	227
維持補修費 c	11	13	11	15	23	16	18	20	23	23
a + b + c = d	795	810	808	740	721	720	685	726	694	683
扶助費	74	92	80	71	123	135	143	94	125	125
補助費等	368	405	429	420	323	395	348	504	826	350
うち公営企業(法適)に対するもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
普通建設事業費	402	308	274	263	240	365	245	423	959	155
うち補助事業費	135	26	122	145	123	359	269	136	112	113
うち単独事業費	267	282	152	118	117	133	188	82	691	25
災害復旧事業費	1	31	6	1	3	232	57	341	268	139
失業対策事業費	0	0	0	0	0	222	169	196	113	113
公債費	579	787	723	718	711	726	947	851	589	580
うち元金償還分	386	608	583	566	572	601	836	769	528	523
積立金	95	28	36	27	95	93	47	173	270	41
貸付金	1	1	2	0	4	3	3	2	4	4
うち特別会計への貸付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち公社、三社への貸付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
繰出金	240	193	216	165	174	253	168	198	180	180
うち公営企業(法非適)に対するもの	21	55	60	29	33	168	17	26	30	30
その他	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
歳出合計	2,555	2,658	2,574	2,405	2,394	2,695	2,597	2,980	3,659	2,118

【財政指標等】

(単位：百万円)

区 分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	(計画前5年度) (決算)	(計画前4年度) (決算)	(計画前3年度) (決算)	(計画前々年度) (決算)	(計画前年度) (決算見込)	(計画初年度)	(計画第2年度)	(計画第3年度)	(計画第4年度)	(計画第5年度)
形式収支	107	78	57	65	91	88	137	139	0	0
実質収支	63	58	44	60	86	78	122	108	0	0
標準財政規模	1,650	1,558	1,555	1,574	1,543	1,717	1,717	1,795	1,717	1,717
財政力指数	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18
実質赤字比率 (%)	3.8	3.8	2.8	3.8	5.6	4.8	6.9	6.0	0.0	0.0
経常収支比率 (%)	97.8	99	102.3	97.9	102.3	101.4	94.2	92.1	104.0	106.5
実質公債費比率 (%)	-	-	-	-	20.2	19.8	18.7	15.6	13.2	11.6
地方債現在高	5,998	5,732	5,469	5,124	4,724	4,317	3,741	3,155	2,721	2,300
積立金現在高	2,744	2,638	2,540	2,448	2,385	2,220	1,996	1,822	1,795	1,710
財政調整基金	397	418	418	408	371	227	228	840	845	799
減債基金	596	470	398	378	298	300	245	155	155	155
その他特定目的基金	1,751	1,750	1,724	1,662	1,716	1,691	1,678	1,653	1,614	1,537

項 目	具 体 的 内 容
1 合併予定市町村等にあつてはその予定とこれに伴う行革内容	
2 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減	課題⑤
○ 地方公務員の職員数の純減の状況	集中改革プランの目標値（から教育長1人、特別会計3人を除く一般会計）H17.4.1現在59人、H21年度末目標56人。H22.4.1現在55人であり、計画最終年度においても集中改革プランの目標値を維持している。 改善額算出方法（対18年度職員純減数×平成18年度平均人件費）
○ 給与のあり方	
◇ 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方	国と同じ給料表を使用。 独自のカット、特別職10%削減（H17～20）5～8%削減（h21）、一般職7%削減（H17,18）3%削減（H19,20）1～2%削減（H21）、議員報酬10%削減（H17～20）5%削減（H21）
◇ 技能労務職員の給与のあり方	平成20年度に取組方針を策定・公表した。 ・国の給料表を基準としたものに見直す。 ・一般事務職への職務転換をすすめる。 ・業務としては将来的に民間委託を検討する。
◇ 退職時特昇等退職手当のあり方	特別昇給なし。
◇ 福利厚生事業のあり方	加入組合において、平成17年度中に見直し済。
3 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等	
○ 物件費の削減	課題② 集中改革プランにおいて、需要費削減、備品購入費削減、臨時職員削減、委託料削減により、平成16年度に対し6%の削減を実施。 H17～21効果目標額40,000千円
○ 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用	課題④ 指定管理者制度導入済み。H19.9月現在、旧委託施設なし。 民間委託可能業務（ごみ収集等）の検討。

IV 行政改革に関する施策（つづき）

項 目	具 体 的 内 容
4 地方税の徴収率の向上、売却可能資産の処分等による歳入の確保	課題① 集中改革プランにおいて、徴収率目標を設定。（町税・国保税98%、住宅使用料97%）H17～21効果目標額25,000千円 滞納者に対する強制執行の強化。
5 地方公社の改革や地方独立行政法人への移行の促進	
6 行政改革や財政状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入	
○ 行政改革や財政状況に関する情報公開	
◇ 給与及び定員管理の状況の公表	ホームページ及び町広報で公表。
◇ 財政情報の開示	ホームページ及び町広報で公表。
○ 公会計の整備	
○ 行政評価の導入	
7 その他	

注1 上記区分に応じ、「Ⅱ 財政状況の分析」の「財政運営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、Ⅱに付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う行政改革推進効果

平成19年度承認分フォローアップ用

1 主な課題と取組及び目標

課題	取組及び目標
1 職員数の純減や人件費の総額の削減	集中改革プラン(H17~21)により、5年間で4.8%の純減を目標に設定。H19.9月現在で目標値以下となっているが、引続き適正な定員管理を行う。人件費については、独自のカットも実施した。

注 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標

(単位：人、百万円)

課題	項目	実績					計画前5年度実績	目標					計画合計	
		平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)		平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)		
1	職員数	60	59	58	59	58		59	52	53	55	56		
	増減数		-1	-1	1	-1	-2	1	-7	1	2	-1	-2	
	職員数のうち一般行政職員数	47	46	45	46	46		47	43	44	46	47		
	増減数		-1	-1	1	0	-1	1	-4	1	2	2	1	
	職員数のうち教育職員数	4	4	4	4	4		4	3	3	3	3		
	増減数		0	0	0	0	0	0	-1	0	0	0	-1	
	職員数のうち警察職員数	0	0	0	0	0								
	増減数		0	0	0	0	0							
	職員数のうち消防職員数	0	0	0	0	0								
	増減数		0	0	0	0	0							
	職員数のうち技能労務職員数	9	9	9	9	8		8	6	7	6	6		
	増減数		0	0	0	-1	-1	0	-2	0	-1	0	-2	
	実質公債費比率	-	-	-	-	20.2		19.8	18.7	15.8	13.0	11.9		
	増減							0	-1.1	-2.9	-2.8	-1.5	-8.3	
地方債現在高	5,998	5,732	5,469	5,124	4,724		4,317	3,684	3,134	2,997	2,658			
増減		-266	-263	-345	-400	-1,274	4,317	3,741	3,155	2,721	2,300	-2,066		
								-407	-633	-550	-137	-339	-2,424	
								-576	-576	-434	-434			
1	人件費(退職手当を除く。)	489	478	470	428	420								
	改善額		11	19	61	69	160	-6	36	30	18	90	72	
	〇〇〇													
	改善額													
	〇〇〇													
	改善額													
							計画前5年間改善額 合計	160				改善額 合計	90	
													72	
													(参考) 補償金免除額	50

注1 歳出削減策のみならず、歳入確保策についても幅広く検討の上、記入すること。

2 「課題」欄については、「1 主な課題と取組及び目標」の「課題」欄の番号を記入すること。

3 改善額については、原則として、計画期間中(又は計画前5年間の当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後の計画期間中(又は計画前5年間)も継続するものとして、各年度の改善額を計上すること。

4 計画期間中の改善額の合計については「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の改善額の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。

5 「計画前5年間改善額 合計」欄及び「改善額 合計」欄については、人件費(退職手当を除く。)その他改善額を記入することが可能なものの合計を記入すること。

6 3による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上し、計画期間内(又は計画前5年間)を通じての改善額しか算出できない項目については、当該計画期間内(又は計画前5年間)を通じての改善額を「計画合計」欄(又は「計画前5年間実績」欄)に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に合わせて記入すること。

7 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、Iの「5 繰上償還希望額」に記入した「旧資金運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。

8 必要に応じて行を追加して記入すること。